

# 地場産品を使った 「ひがまつドッグ」登場

## 第1回奥松島マルシェ

三大都市圏などから移住した地域おこし協力隊が第1回の奥松島マルシェを開きました。隊員の得意分野や受け入れ先の特徴を活かした催しで、市内の活動団体や事業者が5つの屋台を並べ、ホタテ焼きやカニ汁などを販売しました。地元産の野菜やノリ、ソーセージを使い、協力隊が考案した「ひがまつドッグ」も注目を集めました(7月16日、宮戸地区復興再生多目的施設セルコホームあおみな)



# 歩いて豊かな自然を再発見 イモニウォーク奥松島

東日本大震災の復興現場や観光名所を歩いてスタンプを集める「イモニウォーク奥松島」が野蒜から宮戸にかけて行われ、市内外から集まった約120人が自然豊かな地域の魅力を再発見しました。津波の経験で共通するインドネシア共和国バンダ・アチェ市との相互復興の取り組みで、コースの途中ではアチェ市から研修できている若手漁業者も母国のコーヒーやカレーを振る舞いました。(7月16日)



# 県みどりの少年団大会

## 19団体から小学生300人参加

緑や自然の大切さを学ぶ「第42回宮城県みどりの少年団大会」には、県内から19団体の小学生と保護者、関係者ら計約400人が参加しました。被災した大曲浜の海岸近くに、松枯れに強いクロマツの苗木約750本を植樹しました。作業後は大曲市民センターで木工クラフトなどを手掛けながら交流会を実施し、親睦を深めました。(7月28日、大曲地区)



# リングから届ける

## 明日への強き心

### みちのくプロレス観戦交流会

東北地方を拠点とする「みちのくプロレス」の市民観戦交流会では、人気プロレスラーの新崎人生さんやザ・グレート・サスケさんらが出場しました。新崎さんが震災後、上下堤地区の仮設住宅に入居する皆さんと交流を深めたことから企画された無料イベントで、仮設住宅退居後の新生活を築いていく上での力強さを白熱の試合によって届けました。(7月23日、小野地区体育館)



# 国内2つめの “宮城オルレ”を東松島に

韓国・済州島から始まったトレッキングコース「オルレ」。国内で「オルレ」の認証を受けているのは「九州オルレ」のみで、現在は19コースがあります。九州に続いて、国内2つめとなる「宮城オルレ 奥松島コース」の認証を目指して、宮城県知事と駐仙台大韓民国総領事あてに要望書を渡しました。(7月11日、宮城県庁知事室)



大同生命保険株式会社およびAIU損害保険株式会社の協力により実施している「ビッグハートネットワーク」から、寄付金をいただきました。贈呈式には、大同生命保険(株)東北地区営業本部長の加藤健治氏やAIU損害保険(株)仙台支社長の塩崎禎氏が来庁し、工藤教育長に目録が贈呈されました。工藤教育長は「学校図書の充実のために役立ってまいります」と話していました。(7月25日、市役所)

# 次世代を担う子どもたち 役立つ図書を



鳴瀬桜華小学校さくら児童会の児童より、7月上旬からの九州北部豪雨災害での被災に対し、東松島市を通じ日本赤十字社に義援金が贈られました。さくら児童会では、朝礼の前に募金を呼びかけるなどの活動を行い、「私たちが困っているときに助けてもらったので、恩返しをしたいと思いました」などと話していました。(7月25日、市役所)

# 困っている 人のために 役立てて

